

大企業の休眠特許を活用し、「知的財産」との距離を縮めた中小企業

千葉県船橋市のしのはらプレスサービス株式会社(従業員170名、資本金9,000万円)は、プレス機などの補修・メンテナンス等のサービスを行う中小企業である。経営理念として「知識集約型産業」への対応を掲げ、これまでメンテナンスで手がけてきた約4,000種類のプレス機のデータを蓄積・分析しており、プレス機械の点検が法令で義務化される前から、予防のためのメンテナンスの重要性に着目して対応するなど、先駆的な事業を展開している。

同社は、大手自動車メーカーの休眠特許を活用し、これまで特許等を含む「知的財産」と無縁だと思われていたプレス機械のメンテナンス業界の常識を覆した。同特許は、プレス機回転部分を分解せずに充填剤を注入して隙間を埋める補修方法であり、千葉県の特許流通アドバイザーが中国経済産業局の特許流通アドバイザーと連携し、両アドバイザーからの支援・助言を得て、大手自動車メーカーから特許の実施権が許諾されたものである。

これらの取組を通じて、特許を始めとした知的財産に対する社員の意識が高まり、プレス作業と連動して作業員を保護するガードが自動開閉する安全装置「シャッターガード」、高精度な位置検出機構により制御を行う「サーボ駆動式プレスブレーキ」、簡単な構造で加工時のスライド移動の速度調整ができる「リンクプレス改造」等、特許を取得した独自の製品を次々と生み出し、それに関連するサービスを提供している。特に、プレス機械のデータ、各種マニュアル、見積システム等を含めた知的創造活動の成果を知的財産として広く捉えることの重要性を強調している。

同社は、一見、特許等の知的財産と縁が遠いと思われる事業を行う中小企業にとっても、知的財産の戦略的な保護・活用が大きな飛躍をもたらす可能性を秘めていることを示す事例であるといえよう。



自動起動式「シャッターガード」